



佐野短期大学学報

# か た く り



ACCREDITED  
2005

発行/佐野短期大学

栃木県佐野市高萩町 1297

電話 (0283) 21-1200



児童福祉専攻 2 年 第 2 回「さの子育て応援広場」12 月 18 日 佐野市文化会館にて

## 年 頭 の ご 挨拶



## 選ばれる佐野短期大学を目指して

理事長 浦田 奨

新年、あけましておめでとうございます。

平素は佐野短期大学に対しまして格別のご厚情を賜り心より感謝申し上げます。本年も旧年に倍してご支援くださいますようお願いいたします。

さて、本学は平成 2 年の開学以来、建学の精神を基に、時代や地域の要請に根ざした特色ある教育を推進してまいりました。お陰様で本学の卒業生は地域社会の中核として活躍し、多くの方々から高い評価をいただいております。これもひとえに、学生一人ひとりを大切にする教育に熱心に取り組んで来た教職員の努力の賜物と喜んでいきます。

しかし、ご承知のとおり私たちを取り巻く社会環境は極めて厳しく、金融危機問題、少子高齢化問題、環境問題、年金問題、食品偽装問題、雇用問題など、暗い話題や解決が困難と思われる問題が次々と引き起こされています。

特に、少子化の進行による大学全入学時代の到来は、学校の存続を賭けた戦いの始まりを意味し、いま私たち学校関係者は過去に経験したこともない試練の時を迎えています。

地方の短期大学として評価の高い佐野短期大学は、どんな時代にあっても学生は勿論、社会全体から選ばれ続ける短期大学でなければなりません。

本学は、昨年より谷島学長を先頭にファカルティ・デベロップメント委員会や教職員が一丸となって、魅力ある佐野短期大学への新たな教育改革に取り組んでいます。この教育改革が間もなく実行に移されることによって、さらに学生の知的好奇心を刺激し、授業をより魅力的なものにし、生き生きとした教育環境が創造されて行くことと確信しています。

「大学力」と言う言葉が良く言われますが、短期大学での学問は専門性を習得するだけではなく人間教育の場でもあります。学生と教職員の人間的探い絆が重要であり、かつ教育の現場では学問的感動と共感がなければなりません。本学で学ぶ学生を人間的にも大きく成長させ、自信をもって社会に送り出さなければなりません。そのためにも、全教職員が積極的に佐野短期大学の教育改革を展開して行かなければならないと思います。

最後に、解決しなければならない問題は山積していますが、この難局を法人と教学が一体となって打開していく所存ですので、教職員、学生、卒業生、保護者の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。



## 年 頭 の ご 挨拶



## 世界に目を向けて

学 長 谷 島 一 嘉

あけましておめでとうございます。

本学は平成2年に開学し、平成21年には20年目に入ります。昨今の厳しい短大入学者の激減にもめげずに20周年が無事に迎えられることを心から祈っております。20周年記念事業も実施するつもりです。

今、アメリカのサブプライムローンに端を発した、100年に一度とも言われる経済大恐慌が全世界を覆っております。それに加えて昨年11月にインドのウンバイで起きたテロリズムは、テロが世界的な敵であること、断固とした態度で対処しなければならないことを改めて浮き彫りにした事件です。2001年に起きたアルカイダによるニューヨークの航空機テロが、時代の経過とともに記憶が薄められて、毅然としてテロに立ち向かうはずだった当時の世論が、いつのまにかイラクからの撤退に変わってしまい、日本は相変わらずの平和ボケに終始しています。

本学の教職員と学生、卒業生は、少なくともこうした風潮に流されず、常に世界を見据え、自分で考える精神を持って物事の判断に当たっていただきたいと考えます。

ただでさえ日本は島国で、昔から世界とのかかわりが希薄な国でした。東洋の黄金の国ジパングといわれたり、二度にわたる蒙古の襲来を台風で助けられて撃退したとか、300年もの間、徳川幕府の鎖国政策で太平の夢をむさぼったりとか、国がひしめき合うヨーロッパでは全く考えられないような自分たちの生活を享受してきました。そういう日本ですから、われわれは自然に日本国内のことを優先して考えてしまい、世界の情勢に疎いのです。外国から見ると、「井の中の蛙、大海を知らず」ということでしょう。

この「かたくり」を読む皆さん、ぜひ世界に目を向けてください。日本だけはバブルの経験があるから大丈夫だといっていた人が、今慌てだしています。日本も世界の一員なのです。これからはどうしても人口の多い、中国、インド、アフリカ諸国などの動向が世界の経済や政策をを左右してゆくでしょう。世界の貧富の差は一向に縮まっています。

新しい年を迎えて、改めて未来への抱負を決意していただきたいと思います。





佐野市・佐野短期大学 地域連携事業

# 第2回 さの子育て応援広場

## 第6回 児童福祉専攻 卒業研究発表会



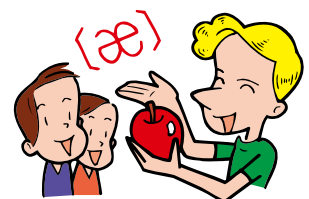
児童福祉専攻主任 教授 藤原保利

佐野短期大学児童福祉専攻は、地域における子育て支援の一環として、本年度も佐野市との共催により、12月18日（午前10時～11時30分）に「第2回さの子育て応援広場」を、佐野市文化会館大ホールにて開催いたしました。市内の公私立の保育園児、未就園児とその保護者、そして一般の来場者を含めて約900人もの方々の参加をいただき盛況のうちに終演を迎えました。子ども達の割れんばかりの歓声は今でも耳に強く残っています。また、午後には、児童福祉専攻の卒業研究発表会を同会場で実施いたしました。来場者からも高い評価を賜り、2年間の研究成果が見事に発揮された瞬間でもありました。児童福祉専攻としても、文字通り地域社会から愛されるように更に研さんを重ねる覚悟でおります。

## 第11回 英語ボキャブラリーコンテスト 英米語学科



平成 20 年 12 月 3 日（水）に  
 第 11 回 英語ボキャブラリー・コンテストを開催。  
 コンテストは  
 Password（連想ゲーム）  
 Pictionary（絵を描くゲーム）  
 Vocabulary Mime（ジェスチャーゲーム）  
 の3つの部門で行われた。



学報編集委員

國分三郎、立川聡子、大熊信成、和田晴美、新井文子、山内健次、松崎勇人、松本悠子、大橋義成、齋藤 彩、森田拓男